



2021年度ブック倶楽部の部長であった片井優芽さんが、令和3年度静岡県私立専修学校各種学校大会/論文の部で、3位入賞を果たしました。本ライブラリーでのことを詳しく書いてくれました。ご報告を兼ねて全文を別紙掲載させていただきますので、ご高覧ください。



「Multilingual 未續 Library」

国際ことば学院外国語専門学校

片井優芽（かたいゆめ）

「読書をする」それは私たちに様々なものを与えます。時には新しい知識を教えてくれ、時には私たちの想像力を働かせてくれます。それでは、多言語で読書をするのはどうでしょう。これを読まれる皆さんに私の学校の図書室

「Multilingual 未續 Library」について紹介します。

まず、図書室を紹介する前に私が現在通っている学校についてお話しします。私の通う学校は「国際ことば学院外国語専門学校」という日・英・韓・中の4か国語とビジネススキルを学べます。この学校の最大の特徴は何と言っても留学生が多いということです。この学校では日本人が少数派であるため、毎日留学気分です。そんな学校の図書室には学校で習う4か国語で書かれた本がたくさん収められています。どの言語の本も初級から上級までレベル別にあるので、自分のレベルに合わせて読み進めていくことが出来ます。特に絵本がたくさんあり、簡単な文章と単語から読み始めることが出来るので、難しく諦めてしまう人でも楽に外国語に触れることが出来ると思いますし、私もその1人でした。私は英語の長文を読むことが苦手でしたが、図書室で易しい本から読み進めたおかげで、今は入学前ほど長文を読むことが辛くなくなりました。更に、4か国語全てが揃っている絵本もあり、同じ絵本でも使っている単語が違ったり、ニュアンスが微妙に違ったりするのを見つけると日本語で読書をするのとは違う感覚でとても楽しいです。そんな私もボランティアで韓国語の絵本を10作以上翻訳したのですが、翻訳しながらニュアンスの違いを読み取り、どのように翻訳をするのか考えることで、韓国語力だけではなく日本語力も上がったように感じます。

Multilingual 未續 Libraryは他の学校の図書室と比べたらとても小さく蔵書数も少ないかと思いますが、でも私はその小ささが好きです。雰囲気も温かく、アットホームで職員室がすぐ隣なので先生方がたまに覗きに来てくださり、お話しすることが出来ます。もし、この図書室に通っていなかったら卒業間近でも知らない先生が沢山いたのではないかと思います。更には、机に向かって勉強をすることが苦手な私が唯一続けられた勉強方法が外国語での多読だったので、多読をしていなかったら私の外国語の能力もそこまで成長していなかったでしょう。それほど私には図書室と外国語での多読が私の成長に影響を与えました。

私はもう後3か月程で学校を卒業してしまいます。毎回日課のように通っていた図書室に行けなくなるのはとても名残惜しいです。しかし、この図書室で過ごして学んだことをこれからも大切にしていこうと思います。そして、私には2年間図書室に通って出来た夢があります。私の学校の図書室のような空間を運営することです。この学校に入って感じたことは外国語の勉強に難しさを感じている人が多いということです。

最近日本に来て1年も経ってない高校生の子が日本語の勉強をするために本を読みに来ます。最初に出会ったときは、とても伝えたいことはあるが、なかなか日本語で表すのが難しそうに見えました。しかし、1か月がたった今、彼女は速いスピードで日本語が話せるようになってきています。まだ拙いですが、一緒にお喋りをしていると日本語で話してくれる事が増え、分からないことがあればすぐに聞いてくれるようになりました。そんな彼女の成長を肌で感じたことで、多読の大切さを感じました。勿論、彼女は授業も受けているのでその影響もあると思いますが、多読の力も同時に影響しているのではないのかと感じます。そんな外国語を勉強したいけどどうしたらよいのか分からない、難しいという人のために、この学校の図書室のようなコミュニティを作り、沢山の人の外国語での多読の面白さや、難しさの中にも楽しさがあることを感じてほしいです。そして、日本に来て寂しさを感じる外国人の居場所を作れたらと思います。これは私が、留学生が多くて、4か国語を勉強するこの学校と外国語での多読が出来る図書室で気づけた部分なのではないかと思います。

そんな、私に新しい夢をくれた、私の大好きな「Multilingual 末續 Library」が更に大きくなって読書をしたい、お話をしたい生徒と先生で埋め尽くされることを願っています。

<後記>

文中に出てくる、「多言語多読」もMultilingual末續Libraryのコンセプトの一つです。外国語習得はかけた時間に比例します。「読書百遍意自ずから通ず」。皆さんも、学習言語に触れる時間をぜひ多読で増やしてください。

なお、片井さんがボランティアで翻訳してくれた韓国語の絵本を図書室に展示中です。片井さんのお薦めは「悪夢を食べて育った少年」(チョ・ヨン著)。韓国ドラマ「サイコだけど大丈夫」に登場する童話です。ドラマと絵本で二度楽しめます。(西貝)

